

中央大学支部 中大技術士会

ニュースレターvol.19

会員の皆様へ

関東地方は、ようやく梅雨らしくなってきましたが、皆様いかがおすごでしょうか。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容や会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。本号では2013年2月～6月の活動内容、第9回定時総会のご報告、今後の活動計画のほか会員のエッセイ、受験合格体験談などをお届けします。

当会では、中央大学理工学部の全学科を対象として「技術士ガイダンス」を実施し、学生の皆さんに技術士への第一歩としての技術士一次試験受験を勧めています。また、今年度から技術士二次試験の受験指導も卒業生向けに始めました。

おかげさまで卒業生はもちろんのこと、最近は現役学生の一次試験合格者の会員も増え、当会の活動は年々活発になっています。ニュースレターをお読みいただき、是非、様々な活動にご参加ください。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ(<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。それではニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 中大技術士会 10 年目の活動を迎えて：中大技術士会 幹事長 林 知幸	2 ページ
活動報告	2 ページ
■ 第9回通常総会・記念講演会	2 ページ
■ 幹事会	4 ページ
■ 部会報告	5 ページ
■ CO ₂ 環境対策技術研究会	7 ページ
活動計画	8 ページ
■ 全般の活動計画	8 ページ
■ CO ₂ 環境対策技術研究会活動計画	8 ページ
■ 各学科との協力事項（都市環境学科、國生教授）ソーラーセル帆走筏の研究	8 ページ
エッセイ	9 ページ
■ 「私の技術士受検遍歴」：前田修さん（建設・農業・総監部門）	9 ページ
技術士第二次試験合格者から	11 ページ
■ 「私と技術士試験」：藤井 雄輔さん（総合技術管理部門・建設部門）	12 ページ
■ 「念ずれば花開く」：伊藤広樹さん（建設部門）	13 ページ
■ 「生涯技術者をめざして」：平野 孔規さん（化学部門）	14 ページ
技術士第一次試験合格者から	14 ページ
■ 「ある一言がきっかけで」：島袋出さん（建設部門）	15 ページ

■ 中大技術士会 10 年目の活動を迎えて：林 知幸（中大技術士会幹事長、上下水道部門）

中大技術士会会員の皆さん、ほんの3、4ヶ月前、どのように過ごされていましてでしょうか。季節が巡るのは早いもので、思い起こすと、全国的に花粉、黄砂に加えてPM2.5の対策に悩まされていた方も多かったのではないのでしょうか？花粉と黄砂は自然現象ですが、PM2.5は人間の知恵を働かせれば解決できる問題です。国際的な問題ですが、多くの技術者が解決に力を添えれば早期解決ができると思います。但し、相手が受けてくれることが条件ですが・・・。



一方、3.11大震災から2年を経過しても、その復旧・復興が目に見えてこないことも事実です。このように私たち技術士が「やきもきする出来事」が山積しています。課題解決に私たちの小さな力が生かされる、即ち技術士が国を動かす「場」が拡大していくことを望むばかりです。

中大技術士会は、2004年（平成16年）6月に産声をあげ、今年6月から10年目の活動に入りました。この間、会員の皆様のご協力により、多くの企画を実践してきました。この実績について照会します。

第1は、「会員拡大」です。2013年4月28日現在、会員数は274名（技術士、修習技術者、準会員）になっています。皆様の周りに中大出身の技術士がおいでになったら加入をお勧めください。入会申込書は、HPにあります。（<http://www.chuo-u-pej.org/>）

第2は、「各種研究会」を立ち上げ、各学科の先生方と協力作業を行っています。応用化学科大石先生が中心となり立ち上げた「Co₂環境対策技術研究会」は、年間2～3回の研究会を開催し、学習を深めています。また「低緯度太平洋ソーラセル帆走筏発電システムの成立性」の研究は、都市環境学科國生先生を中心に行っており、2013年度も継続が決まっています。その他、精密機械工学科、電気電子情報通信学科などの先生方との研究会を企画しています。

第3は、「学生の講義に講師を派遣」しています。「科学技術と倫理」（1年生全学科対象）、「技術者倫理」（都市環境学科4年生対象）に16名の講師を派遣しています。

第4は、学生期間中に一次試験に合格することを目標とした「技術士ガイダンス」を行っています。2012年度は、学生の合格者が31名とガイダンスの成果が現れています。

紙面の関係で記載できませんが、これ以外に多くの活動を行い、大学側、学会（同窓会）から信頼を得ています。

末筆ながら、皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。

活動報告

■ 第9回通常総会

中大技術士会第9回定時総会を下記日程で開催しました。

日時：2013年6月1日 13:00 開場 14:00 開会

場所：中央大学理工学部後楽園キャンパス 5335号教室

出席：45名

内 容:

- 13:00～13:30 技術士二次試験ガイダンス
- 14:00～15:00 通常総会
- 15:15～16:30 特別講演
- 17:00～18:30 交流会 (5号館地下の学生食堂にて)

1) 技術士二次試験ガイダンス

総会に先立ち、初の試みとして技術士2次試験対策ガイダンスを行いました。

民間企業の技術士受験セミナー主催者でもある坂林幹事から、本年度から変更になった技術士試験制度の変更点、試験対策方法など、説明がありました。(写真1。)

受講された方から活発な質疑もあり、受講した方々から「受講して良かった。是非、継続的なサポート体制をお願いしたい。」「試験に合格して、技術士として中大OBの方々とのネットワークを広げたい。」等という感想を頂きました。

今後は、中大技術士会の会員に対して指導可能な技術士の紹介など、受験支援サポート体制を整えて行きたいと思えます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



写真1. 坂林幹事による二次試験ガイダンスの様子



写真2. 金川会長による挨拶の様子

2) 通常総会

通常総会本会では、議事に先立ち、金川会長より挨拶を頂き(写真2)、議長に藤森副会長、議事録署名人に小柳幹事、篠崎幹事を選出、議事の審議に入りました。

以下の各議案を審議し、すべての議案が承認されました。

- 議 題 第1号議案 平成24年度活動報告(案)に関する件 各担当幹事
- 第2号議案 平成25年度活動計画(案)に関する件 各担当幹事
- 第3号議案 平成24年度収支決算(案)に関する件 事務局
- 第4号議案 平成25年度収支予算(案)に関する件 事務局

議案審議の後には、林幹事長の事務局報告、各部会の長による活動の報告がありました。

3) 特別講演

総会終了後、特別講演を行いました。

演者と演題は以下の通りです。

演 者 中央大学工学部生命化学科教授諏訪裕一氏

演 題 「小さな生き物の微かな息遣いを聴く

～中大式 GCMS による呼吸活性高感度測定法

の確立を利用～



写真3. 諏訪教授による講演

生命科学科は、2008年に開設され、昨年第一期生を社会に送り出した若い学科です。中大理工学部の諸先輩方には、生命科学という分野はあまり馴染みのないもの、わかりにくいもの、という先入観がありました。今回、諏訪先生の講演は、我々が普段親しみのある身近な事例から始まり、この分野の歴史、現在取り組まれている内容と、分かり易く解説していただきました。

4) 懇親会

17時より、会場を5号館地下に移動し、学員会本部、法曹会、公認会計士会、南甲クラブなど多くの来賓の方々や理工学部長を始めとする各学科の先生方のご出席を頂き「懇親会」を盛大に挙行了しました。

■ 幹事会

本会では概ね月に1度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学員会会議室、または後楽園キャンパスで行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

○幹事会

行事名	開催日程	活動概要
平成24年度 第7回幹事会	3月2日(土) 13:00~15:00 中央大学学員会 会議室(お茶の水) (550号室)	(各部会報告) ・総務部会、企画部会、広報部会、大学支援部会の各部会からの報告 ・物理学科のガイダンスについての報告。 ・他学科のガイダンスの予定が発表された。(6月から実施) (その他議題) ・総会日程を5月18日(土)に予定したが、他学員会行事と重なるため6月1日(土)に変更することにした。 ・CO ₂ 環境対策技術研究会からの報告 ・学員会「南甲クラブ60周年記念総会」に会長が参加する。
平成25年度 第1回幹事会	4月16日(火) 18:30~20:00 中央大学後楽園 キャンパス (6318教室)	(各部会報告) ・総務部会:名簿の更改、一次・二次の合格者の入会状況 ・広報部会:ニュースレターの発行について、会員の推移 ・企画部会:講演の企画、法曹会・公認会計士会との交流 ・大学支援部会:ガイダンスの計画、「科学技術と倫理」「技術者倫理」の講師派遣内容 (その他議題) ・6月1日(土)の総会準備 ・CO ₂ 環境対策技術研究会報告 ・各学科との研究協力進捗報告
平成25年度 第2回幹事会	5月14日(火) 18:30~20:00 中央大学後楽園 キャンパス (6309教室)	・6月1日の総会に向けた段取りの打ち合わせ 配付資料の内容の確認 ・技術士1次試験ガイダンスの日程の確認 ・CO ₂ 環境対策技術研究会報告 ・各学科との研究協力進捗報告

■ 部会報告

○広報部会

項目	内容																														
サーバー運営	① 新規入会者の最近のML登録状況と会員累計（4月28日時点） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>技術士</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td>11</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>修習技術者</td> <td>22</td> <td>6</td> <td>4</td> <td></td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>準会員（教授等）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>24</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>274</td> </tr> </tbody> </table> ② 幹事会運営に関する情報登録開始。	区分	1月	2月	3月	4月	累計	技術士	2	1		11	198	修習技術者	22	6	4		67	準会員（教授等）					9	合計	24	7	4	11	274
区分	1月	2月	3月	4月	累計																										
技術士	2	1		11	198																										
修習技術者	22	6	4		67																										
準会員（教授等）					9																										
合計	24	7	4	11	274																										
ニュースレターの発行	① ニュースレターvol.19の作成および発行																														
HP新規掲載	① ニュースレターvol.18の掲載 ② CO ₂ 環境対策研究会第16、17回研究開催案内掲載																														
その他	① 中大技術士会紹介リーフレット改版 ② 会員の皆様へのお願い 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org																														

○総務部会

項目	内容
名簿の管理	3月の合格発表後、二次試験合格者に加入案内を送付
会計管理	3月31日、平成24年度会計の締切
ガイダンスの日程調整	各学科の教授にお願いし、技術士ガイダンスの日程を調整。

○大学支援部会

行事	日程	内容
「技術者倫理」講義への講師派遣の打ち合わせ	3月13日（水） 場所：2215教室	國生教授から講師に対しての説明 昨年の学生の授業評価によるフィードバック。4月9日に國生教授が第一回を講義し、以降14名の講師が担当
技術士1次試験ガイダンス	5月中旬～6月中旬 （一部、1月に実施済み）	各学科の先生の授業の時間15分程度を借りて、技術士1次試験の内容説明、申込書を合計1,300部配付（表1参照）
「技術者倫理」講義	4月下旬～7月中旬	都市環境学科4年生（70名）の必修科目（表3参照）
「科学技術と倫理」講義	5月21、28日（火） 場所：5233教室 18:00～19:30	全学科1年生対象の選択科目（表2参照）

表 1. 平成 25 年度技術士 1 次試験ガイダンスの実施状況

日付	学科名	時限	人数	教室	担当先生
5月16日(木)	都市環境学科	1,2限	60	2221	佐藤教授
5月16日(木)	都市環境学科	3,4限	50	2416	前川助教
6月10日(月)	精密機械工学科	1限	160	5236	戸井教授
6月10日(月)	経営システム工学科	2限	130	5335	藤沢教授
6月12日(水)	生命科学科	3限	100	2238	上村教授
6月14日(金)	電気電子情報通信	1限	150	5534	橋本教授
6月17日(月)	応用化学科	2限	200	5336	大石教授
6月17日(月)	情報工学科	5限	100	5236	久保田教授
6月18日(火)	情報工学科	3限	100	5233	浅野教授
1月12日済み	物理学科	—	80	—	杉本教授
各科大学院生配布部数			180		
小計			1310		

表 2. 平成 25 年理工学部 1 年生「科学技術と倫理」概要

回	月 日	講師名	テーマ	キーワード
第7回	5月21日	相澤謙次	科学技術倫理の変遷	経済と技術倫理、公害、ジレンマ、良心、リスクマネジメント
第8回	5月28日	染谷繁実	銀行券自動一貫処理システム安定稼働維持への技術的アプローチ	冗長性と経済性、障害へのランク別対応、ハインリッヒの法則、更新サイクル

授業時間は、第 6 時限：18:00~19:30 場所:5233 教室

表 3. 平成 25 年理工学部都市環境学科「技術者倫理」概要

回	月 日	講師名	テーマ	キーワード
第1回	4月9日	国生剛治 (担当教授)	「技術者倫理」講義について	授業構成・狙い、技術の役割、地球環境、公共事業、技術者の自己実現とは
第2回	4月16日	岩瀬暢男	なぜ技術者の倫理か —総論—	技術者倫理の位置づけ、倫理と法、コミュニティにおける倫理、倫理実行の方法
第3回	4月23日	藤森公彦	情報・データの捏造・改ざんと技術者のあり方	データの重要性、データ捏造・改ざんの事例、技術者のあるべき姿、
第4回	4月30日	小林 進	卒業後のキャリアを考える。	キャリア、時間管理、資格、倫理（技術士制度）
第5回	5月7日	中尾愛人	水道や水源河川に見る技術者像	水道法、河川法、歴史上の出来事、河川環境、安心安全
第6回	5月14日	小柳拓央	町工場の経営者から見た企業倫理と技術者倫理	ものづくり 町工場経営 技術と技能利害が絡むトラブル事例
第7回	5月21日	篠崎博文	人間の身体と技術者倫理	慢性病、生体力学、ロボット工学、資質向上
第8回	5月28日	加藤行勝	製造業における品質管理活動と技術者倫理	固有技術と管理技術、総合的品質管理、品質管理と品質保証、技術者倫理、PL法、薬事法
第9回	6月4日	足立元良	コンサルタント業としての技術者倫理	建設コンサルタントの日本の特徴と最近の発注者、建設業者との対応

第10回	6月11日	坂林和重	企業と技術者倫理	海外から入ってきた技術者倫理、経済産業界・世界での技術者倫理
第11回	6月18日	清水英樹	建設業における技術者倫理	建設技術者の役割と責務、建設業に関わる制度・法律、建設工事におけるQCDSSE
第12回	6月25日	笹尾圭哉子	下水道の計画・設計における技術者倫理	公益の確保、具体的な方法としての技術者倫理
第13回	7月2日	小野塚喜代一	建設コンサルタントの役割(今まで、これから)	道路を中心としたアセスメントから国土防災に向けて一
第14回	7月9日	須田久美子	人間力を磨くーコンクリート構造物の設計施工を事例に100年を造る仕事を考えるー	人間力、コンクリート構造物、品質管理
第15回	7月16日	林 知幸	落とし穴は巧妙に作られている	官公庁の仕事、民間企業、塀の上を歩くことも、技術開発で生きる

講義の期間は前期の4月から7月 授業時間は、第5時限：16:20~17:50 場所:5233 教室

○企画部会

項目	内容
H25年度 第1回講演会	6月1日、第9回通常総会後の講演に向けての調整。
他学会会との交流調整	法曹会、公認会計士会との交流の調整

■ CO₂環境対策技術研究会

本研究会は、地球規模の課題となっているCO₂対策について勉強しつつ、大学、企業等が持つCO₂対策に関係する技術の相互利用、或いは技術の移転や共同研究を円滑に進めることを目的としています。なお、本研究会は8月から翌年の7月を1期としています。本号では前号（2013年1月30日発行）以降の活動内容・予定を報告します。

詳しい報告は本会HP（<http://www.chuo-u-pej.org/>）をご覧ください。

CO₂環境対策技術研究会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
H24 第4回幹事会 参加者 幹事5名	H25年2月7日（木） 18:30~20:00	第16回研究会（金沢八景総合車両）の確認 第17回研究会（合同資源）の企画 話題提供：内藤幹事長「化石燃料を使わない発電構想」
H24 第5回幹事会 参加者 幹事7名	H25年3月28日（木） 18:30~20:00	第16回研究会（総合車両）の応募状況 第17回研究会（合同資源）の確認 話題提供：大石副会長「我慢できる放射線量」 金川副会長「金属銅線の発熱と電流／電圧の関係」
第16回研究会	H25年4月18日（木） 見学会 13:00~17:00 交流会 17:30~19:30	(株)総合車両製作所（金沢八景） 講演：「総合車両製作所の環境活動」 交流会：金沢文庫駅周辺
H24 第6回幹事会 参加者	H25年5月16日（木） 18:30~20:00	第16回研究会（金沢八景総合車両）の報告 第17回研究会（合同資源）の確認 話題提供：藤森幹事

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

■ 活動計画全般

○幹事会

行事名	開催日程	活動概要
平成 25 年度 第 3 回幹事会	7 月 22 日（月）18:30～ 駿河台記念館 715 会議 室	<ul style="list-style-type: none"> 技術士模擬試験の段取り打ち合わせ 大学行事の出展の打ち合わせ 各部会の報告など

○企画委員会

行事名	開催日程	活動概要
ホームカミングデー	10 月 27 日（日） 多摩キャンパス	「技術無料相談会」及び「技術士（同補） 受験相談会」、及び模型の展示を計画。
中大白門祭	11 月 2 日（土）～4 日（月） 後楽園キャンパス	後楽園校舎 6 号館 1 階ロビーで、「技術無料相 談会」及び「技術士（同補）受験相談会」、およ び模型の展示を計画。

○大学支援部会

行事名	開催日程	活動概要
技術士第一次試験 模擬試験	9 月 21 日（土）9:00～19:30 5334 教室	学生の希望者を対象に 1 次試験合格に向け た模擬試験を行う

■ CO₂ 環境対策技術研究会 活動計画

項目	開催日程	活動概要
第 17 回研究会	H25 年 7 月 12 日（金） 見学会 13:15～15:00 講演会 15:15～16:30 交流会 17:00～18:30	見学：合同資源産業(株)千葉事業所のヨウ素 および天然ガス生産工程 講演：ヨウ素と天然ガスの生産とヨウ素の 利用について 交流会：茂原駅周辺で計画

■ その他 各学科との協力事項（Co2 環境対策技術研究会を除く）

○平成 25 年度「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」研究への参画

中央大学理工学部都市環境学科・國生教授が取り組まれている標記研究に中大技術士会から 12 名が客員研究員として参画しています。平成 24 年度は、海洋開発機構、産総研、東京電力、造船会社等の専門家を招き研究会を 7 回実施し、気象、船体構造、ソーラーセル、蓄電池、海洋法などカテゴリーごとの課題抽出を行いました。

平成 25 年度も前年度に引き続き中央大学理工学研究所研究プロジェクトとして採択されましたので、気象、船体構造、ソーラーセル、蓄電池、海洋法などのカテゴリーごとに課題を整理し、フィージビリティ・スタディに向けた研究を進めるとともに、公的研究助成や共同研究事業者の獲得を目指す他、工業所有権など知的財産権保護の取り組みを進める計画です。

今回は、前田修さんから技術士受検遍歴を通じて得た「技術士としての心構え」などについてエッセイをいただきました。

■ 「私の技術士受検遍歴」：前田修さん（建設・農業・総監部門）

皆様はじめまして。現在、愛知県内の建設コンサルタントに在籍しており、日ごろ中大技術士会に参加する機会が少ないため、名古屋からニュースレターでのご挨拶です。このニュースレターが配信される頃には、平成 24 年度の技術士試験合格者の発表も済んでフレッシュな技術士が数多く誕生している時期であると思われます。合格者の皆さん、おめでとうございます。



私は、平成 23 年度に農業部門（農業土木）に合格し、平成 8 年 3 月に建設部門（土質基礎）に合格してから、3 部門（4 科目）を取得しました。理工学部土木工学科を卒業してかれこれ 28 年、ダム、斜面防災、農地保全等に関わる調査・設計など、地盤工学を主体として多岐部門の業務に携わってまいりました。

私が技術士受験を決意した理由は、身近でエンジニアとして活躍され、ご指導いただいた我が中大土木の大先輩（故大根義男先生）の姿を目の当たりにしたことにあります。先生は愛知工業大学教授として教育・研究活動に携われると同時に、大学卒業後、役所やコンサルタント会社勤務の経歴もあありで、建設部門の技術士でもあり、特に現場を大事にされる方でありました。地すべり崩壊事故現場に御一緒したことがあるのですが、崩壊事故に至った現場の挙動を、まるでそこに居られたかのように、現地でわかりやすく説明してくれたことがありました。また、現場のことは直接作業している人に聞くのが一番と言い出し、現場監督ではなく、あえて重機オペレータや現場作業員から直接情報収集されたこと、その後の対策等についても的確な指示を出され、現場の皆さんから「先生、先生」と慕われていたことなどが印象的でした。私もいつか大根先生のように、周囲から頼りにされるエンジニアになりたいと思い技術研鑽に勤め、エンジニアとしての免許証取得の意味で技術士試験に挑戦してきました。

地盤工学が専門でしたので、最初に建設部門（土質基礎）にチャレンジしたのですが、口頭試験で極度に緊張して頭の中が真っ白になってしまった大失態（何と答えて良いのかさっぱりわからなくなってしまったこと）を、その後の面接試験前になると必ず思い出してしまいます。持ち前の“人懐こさ？”と“ニコニコ笑顔？”で何とか切り抜けて、面接試験終了の合言葉“技術士の 3 つの義務”までたどり着いたことは今でも忘れることができません。

とりあえず技術士として 1 部門取得しておけば何とかかなと思っていたのですが、その後、地すべり対策などの斜面防災に関わるようになってくると、砂防行政、源流から河口までの総合土砂管理のありかたなど、さらに総合的な視野から物事を提案する必要性が生じ、建設部門（河川砂防）の免許取得？にチャレンジすることとなりました。口頭試験も 2 回目以降は、特に試験として意識するのではなく、「普段発注者と打合せを行っている意識で臨んでいること」が功を奏しているのか、試験官との言葉のキャッチボールで極度に緊張することもなくなりました。

その後、業務遂行などマネジメントの必要性から、総合技術監理部門にもチャレンジすることになりましたが、テキスト（青本）に出てくる“カタカナ用語”がなかなか覚えられず苦労したこと、青本を開いて数ページめくると良く眠れた？ことを覚えています。（いまだかつて、総合技術監理部門で業務の管理技術者になったことは有りませんが・・・）

農水省関連の農地保全（ため池改修や斜面防災）の業務を行うに当たっては、同じ防災の業務

でも、建設部門（土質基礎や河川砂防）では業務管理技術者としての資格要件を満たさないことが多く、新たに農業部門（農業土木）にチャレンジすることになりました。平成 22 年度には筆記合格、口頭試問試験までこぎつけましたが、経歴、体験業務に関する私の説明が不十分で理解していただけなかったためか、闘いの甲斐も無く撃沈されました。翌年（平成 23 年度）に再チャレンジして口頭試問試験までこぎつけました。渋谷のフォーラムエイトビルの試験室前の廊下で待機していたところ、試験室のドアが開き、中へ案内してくださった試験官は何と昨年と同じ方ではないですか！不吉な予感を感じながらの口頭試問開始となりました。試験官の方も私のことを覚えておられたようで、敢えて「今回は何度目の受験ですか？」と質問されました。体験論文に関しては、当然のことながら、事前に読まれて質問を準備されているのですが、関連する文献資料までインターネットで入手して詳しく調べてこられたことを試験官本人から告げられ、これには頭の下がる重いでした。近年の農業行政（ストックマネジメント、戸別所得補償制度、TPP 等）や、一般人に農業施設への関心を持ってもらうための方策等に関する私見を求められ、模範解答とまでは行きませんでした。何とか 2 回目の面接で合格することができました。

長年試験を受けている中で、筆記試験問題の出題方法、解答方法が受験当初と大きく変わってきたことに気がきます。以前は、「〇〇に対して、△△部門の立場からあなたの意見を述べよ」のように、問題文は短く抽象的でしたが、近年の出題は問題文がとにかく長く、多くの条件が記されているように感じます。細かな設問（設定条件）にすべて対応し、さらに問題点や課題提起、具体的な解決方法まで記述されていないとなかなか合格点に達しないようです。ある意味、昔は暗記中心の解答であったものが、近年では、細かな設問にすべて対応して具体的に解答するという点で、本人の客観的な対応能力が試されるようになってきたと考えられます。平成 25 年度には、筆記、面接試験ともにさらなる変革がありますが、とにかく筆記試験では問題文をよく読みの確に解答すること、面接試験では試験官の質問を最後まで聞き、内容をよく理解して、一呼吸おいて、笑顔で的確に回答することが合格の秘訣ではないかと思います。

最後に、技術士資格を取得して 18 年目となりますが、初めて合格した時に、諸先輩方から教えられた技術士としての心構え

- ① 技術士としての発言の重さを意識せよ！（軽々しい発言は避けよ！）
- ② 物事に対する観察力を磨け！（常に観察！）
- ③ 下を向くな、常に上を向け！

は今も教訓としており、今後もこの教訓のもと、ますます精進していきたいと思います。



仕事の合間を縫って旅行に出かけることが趣味で、写真は 2 年前に中国旅行したときのものです。

以上

今回は、藤井雄輔さん（総監・建設）、伊藤広樹さん（建設）、平野孔規さん（化学）の3名から体験談を投稿いただきました。これから二次試験合格を目指す方には、3名の受験の背景や動機、準備する姿勢は、大変参考になります。是非、良いところを吸収して役立ててください。

■ 「私と技術士試験」：藤井 雄輔さん（総合技術管理部門・建設部門）

①受験の動機

私は、中央大学の学生時代は、あまり勉強した記憶がなく、ただなんとなく卒業したような感じでした。ある程度地域に根ざして活躍している職場のほうが仕事のやりがいを感じられると考えたこと、親戚が新潟に多かったことなどから(株)福田組というゼネコンに就職しました。



入社当初より、現場施工管理を担当し、宅地造成工事、港湾工事、下水道推進工事、道路工事、バリアフリー化工事、ガス工事、建物解体工事、河川整備工事など専門を極めることなく多様な工事に現場代理人・監理技術者として従事しました。若い頃から、多くの職人や、いわゆる役人といった人達に接する機会が多かったため、自分の技術力に何かしらの自信を持ちたかったし、自分の仕事に何かしらの意味を見出し、自分を成長させたいと常に考えていました。そんな、鬱積した気持ちを何とかはらしたいと思ったのが、技術士試験の受験を試みた動機です。

30歳までに取得しようと思っていましたが、結婚したり、子供ができたりと生活の変化などもあり、建設部門の取得は32歳のときでした。その後、総合技術監理部門もいずれは取得しようと考えていました。建設部門にたまたま合格したにも関わらず、技術士試験を甘く考えるようになっていたため、総合技術監理部門の取得は40歳になりました。やはり、勢いのついているときにどんどん勉強するべきであったし、常に謙虚に学ぶ姿勢を継続させることが重要と今更ながら感じています。

②準備の方法

建設部門の論文の準備は模範論文を読むとともに、近くに論文の添削をしてくれるような人がいるような恵まれた環境のある人はそうした環境を徹底的に利用するのが、てっとりばやいと思います。私の場合、職場に技術士試験受験の雰囲気になかったため、自分なりに添削してくれる人を見つけて論文の完成度を上げていきました。とにかく、論文をさっさと書いて第三者に添削していただくのが試験準備としては効率的だと思います。

技術士試験の特徴の一つに口頭試験対策がありますが、これが、結構、プレッシャーになります。とにかく想定問答集を作り、本番を想定して面接練習（イメージトレーニング）に励みました。その上で、模擬面接をする機会を本番までに設けました。

総合技術監理部門は建設部門の時の雰囲気を思い出し、論文はとにかく書いて第三者に添削してもらいました。また、択一对策として青本（技術士試験における総合技術監理部門の技術体系）を読み込みますが、最初はよく理解できなかつたです。すでに勉強し、理解している人に聞くなどして、そもそも総合技術監理とは何かということ自分の言葉で説明できるようにすることが肝要だと思います。それにより、青本も読みやすくなるし、面接時にも自信を持って望めるはず

と考えます。

③受験の感想

2部門の技術士を取得して考えることは、技術士試験は、結構、私に向いている試験であるということです。と言いますのは、日常業務で自分なりに考えていることを論文という形にしていけばよいのですから、いつもどおりクライアントに応えているような感じで試験に望めるからです。そのため、変に記憶力を試される試験より、私は受験しやすいと思いました。本番は、自分の考えをただ書くだけですとちょっと雑すぎるので、添削してもらった受験準備を思い出して技術士試験用の答案を書くという感じです。また、完璧な答案は必要なく60点で合格点なのだから気楽にとにかく書けば、そこそこ、合格点に近づくのではないかと考えています。

④当会への期待

とりとめのない体験談になってしまいましたが、今年、私はある決断をしました。いろいろな状況が重なり、転職をすることとなりました。今年の春より、東京都職員として働くことになりました。いい歳をして民から官への転職は不安も否めませんが、新入社員として心機一転頑張ろうと思っています。いままで全国を転勤してきたため、東京にいることは少なかったのですが、これからは、都内での勤務が多いと思われるので、久しぶりに中央大学の皆さんともお会いし、当会にも顔をだすことで、自分の役割を見出していきたいと考えています。中大技術士会の皆様よろしくお願いします。

以上。

■ 「念ずれば花開く」：伊藤広樹さん（建設部門）

■はじめに

私は、平成19年3月に中央大学法学部通信教育課程を卒業しました。

平成10年に10月生として通教に入学して以来、卒業までに実に8年半の年月がかかりました。

技術士第二次試験の受験は、平成18年から受験して、6年越しの4回目できるよう合格することが出来ました。



■受験の動機

私は、土木系の専門学校卒業後、建設会社→設計会社→建設コンサルタント会社という職歴です。「技術士」という、とても難しく技術者のあこがれの資格があるという事については、学生の頃から知っていました。学生の頃は、「まずは技術士補に挑戦だよな」というのが仲間の間での会話でした。しかし、社会に出て現場監督になると勉強する時間もなく、まずは「一級土木施工管理技士」をとるのが先決だと職場で言われ、技術士一次試験を受験したのは30歳の時でした。幸い1度目の受験で合格出来たのですが、当時の試験制度では、一次試験の合格が二次試験の受験要件にはなっていなかったため、技術士補になっても会社や廻りの人からはほとんど評価されませんでした。よし、それでは次は技術士だ、と思い二次試験の過去問等を読みましたが、ちんぷんかんぷんで、体験論文も簡単に書けるものではないので、今受験しても合格はほど遠いと思いました。私は、高校の時から土木以外に学びたかった学問で「法学」がありました。本屋で中大法学部に通信教育があるということを知り、技術士二次試験はもう少し経験を積んでからにしようと思い、施工管理の仕事をやりながら中大通教を始めました。その後、中大の通教も卒論のみとなり、体験論文のネタになりそうな現場も経験出来たので、39歳で初めて技術士二次試験に挑戦しました。

■準備の方法

技術士二次試験での最大の難関は「体験論文」だと思いました。体験論文は実際経験した問題点について技術士としてどのように工夫して解決に導いたかについて記述しなければならないので、現場で体験論文のネタになりそうな事柄は資料を残すようにファイリングしていました。また、周りに技術士がいなかったため独学では合格レベルに達するには限界があると思い、ボランティア的な受験指導塾の添削指導を受けました。平成 18 年の 1 回目の受験の時の試験制度は、建設専門（記述）、体験論文（記述）、建設一般（記述および択一）とフルコースでした。結果は、建設一般以外は A だったのですが、不合格でした。しかし、体験論文が A 評価だったのは、間違いなく添削指導のおかげだと思っています。様々な添削指導があるようですが、廻りに技術士がない方は、何かしらの添削講座を受講した方が良いと思います。

試験は 2 回目も建設一般が B で不合格。3 回目は、建設専門が B で不合格。さすがに 3 連敗には落ち込み、4 年目、5 年目は受験申し込みをしたものの、勉強不足を理由に当日受験会場に行かず、6 年目に突入しました。初受験から 6 年が経ち、平成 23 年 3 月 11 日にあの震災を仙台の職場で体験しました。震災後はみなさんが様々な報道で見たとおりの状況でした。4 月の受験申し込みの時も職場の仙台や自宅のある福島市が放射能問題等で落ち着いていなかったため、今年を受験を流そうかと悩みました。しかし、被災地を目の当たりにして、何故だか分かりませんが、「今年を受験しよう」と背中を押されるものがありました。そして今まで蓄積した技術士受験用のデータを復習して受験に挑み、筆記試験に合格することが出来ました。

■受験の感想

技術士二次試験の難関試験といわれる所以、理由の一つは、口頭試験があることだと思います。私は、やっと手に入れた、口頭試験の切符をなんとか一発で合格切符にしたいと思い、筆記試験の合格を知った日からは、朝起きてから通勤、仕事の合間、あらゆる隙間時間を口頭試験対策に費やしました。口頭試験の時は、緊張がピークに達し、胃痙攣を起こしました。うずくまりたくなるほどの激痛でしたが、何としても乗り切らねばと思い苦痛と裏腹に試験の応答は「笑顔」で頑張りました。そして、あの震災から約 1 年後の平成 23 年 3 月 5 日の合格発表者の中に自分の名前がありました。

今私の経歴書には、最終学歴：中央大学法学部通信教育課程 卒業、取得資格：技術士（建設部門）と記載があります。中大卒業に 8 年、技術士取得に 6 年と、本当に要領の悪い「のろまなカメ」です。しかし、「念ずれば必ず花は開く」と思います。平成 25 年度より試験内容がまた変わりますが、受験を志されている方は、「あきらめない心」で頑張ってください。

以上。

■ 「生涯技術者をめざして」：平野 孔規さん（化学部門）

皆様初めまして、1997 年度に理工学部応用化学科卒業、1999 年度に博士前期課程理工学研究科を修了した平野孔規と申します。現在、液晶化合物製造を主要事業とする化学系メーカーに勤務し、液晶化合物の開発および量産化をメイン業務として活動しています。今回、技術士二次試験の合格体験談のお誘いを頂きましたので、今後、技術士を目指す方々の参考になればと思い、僭越ながら寄稿させていただきます。



【受験の動機】

技術士を目指した動機ですが、実は父の勧めです。父も化学部門の技術士であり、進路を意識した時から気が付けば無意識に父の背中を追い掛けていました(たまたまかもれません)。

その父はというと、某石油化学系メーカーを定年後もイチ技術者として現役で活動しております。父は『技術士資格を取得していたからこそ今がある』といった趣旨のアドバイスを私に与え、都度、技術士資格取得を勧めてくれました。理系の技術者たるものできるものなら、「生涯現役の技術者でありたい」、「技術者として社会に貢献し続けたい」と考えていた私に強く技術士となることを動機付けさせてくれました。

【受験準備、学習アドバイス】

一次試験対策については、過去数年分の出題例およびその周辺知識を繰り返し学習することが一番の近道かと考えます。一次試験自体の合格率は決して低いものではありませんし、出題の傾向、難易度も怖じ気づく必要はないものです。基礎知識の蓄積として勉強しさえすれば、突破は難しくないと考えます。

二次試験対策ですが……。正直私も受験を意識した時に途方に暮れました。出題範囲の広さに加え、その知識・応用レベルが高いからです。しかし、決して誰も受からない試験ではありません。今後技術士を目指す皆さんに私の体験談が参考になれば幸いと思い、以下に二次試験対策について私見を記します。

①各部門のトピックについて自分の言葉で解説できるようにまとめておく(化学部門ではクロスカップリング技術のノーベル賞受賞がトピックであり、実際出題されました)。

②重箱の隅をつつくような知識は必要ない。各部門の基幹・基礎となる技術についての学習が必須と考える。

③技術士試験支援サイトや周りの既技術者の協力をうまく活用する。高額な受験支援講座の誘いは多いですが、受講が必須とは思えません。受験の参考となるサイトは多いですし、周辺の同部門の既技術士の方へ相談できれば、きっと協力してくれると思います。化学部門の方であれば私でよければ喜んで支援・協力させていただきます。

【技術士受験の感想および中大技術士会への期待】

H23年度に幸いにして技術士資格を取得し、現在、企業内技術士として活動しています。技術士として良かったと実感できるのはこれからかもしれません。しかし、生涯技術者を目指すものとして、技術士資格取得は必須と考えます(技術士法に定める技術士の定義および継続研鑽の観点から、少なくとも私はそう考えます)。技術士資格において建築、道路、上下水道といった部門に対し、化学部門は正直言ってマイナー部門かもしれません(現時点で中大技術士会の化学部門は私一人ですし……)。しかし、化学が成してきた社会貢献は決して建築他部門に負けることも劣らないと考えております。既技術士の過多に関わらず、今後、各部門において相互で情報交換、協力および切磋琢磨できる環境を構築できれば、理系の技術者として、中大OBとして素晴らしいことと考えます。生涯現役の技術者を目指し、技術士として継続研鑽に努めたいと思います。今後、技術士を目指す皆さん、共に頑張りましょう!!

PS.私で良ければ化学部門の受験希望者のアドバイスをさせていただきます。

希望者は右記メールアドレスへご連絡下さい。koki_hirano@nexyzbb.ne.jp

以上

技術士第一次試験合格者から

このコーナーでは、技術士一次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士への思い等について書いていただきます。今回は、建設部門で一次試験に合格した島袋出さんに書いていただきました。日々精進、頑張ってくださいね。

■ 「ある一言がきっかけ」：島袋出さん（建設部門）

皆様はじめまして、島袋出と申します。理工学研究科にて土木工学を専攻し、2005年に卒業しました。現在は化学メーカーである積水化成工業(株)にて主に土木・建築資材関連の商品開発を担当しています。入社5年目の時に何故技術士第一次試験を受験しようと思ったのかについて書かせて頂きます。



1 受験の動機

土木・建築商品の開発を始めて5年が経ち、技術自ら開発商品の提案をお客様に行う機会が増えてきました。また共に業務を進めていたコンサルタントの方との雑談の中で、「今後のメーカーとして強みを発揮するためには、自社の商品にとどまらず、お客様が欲する様々な事に対し、解決策をいくつも提示できる能力が必要」とアドバイス頂いたことがありました。メーカーの開発はある特定分野に絞って狭い範囲で独自技術を開発しています。ある時、お客様へ自社商品を提案している中で、「この分野はどう？」と聞かれる際に提案出来なかったという苦い経験をしました。改めて総合的な知識が必要であると認識したのがきっかけで、技術士建設部門を受験しようと思いました。

2 受験の準備・学習方法

受験を決めたのが約8ヶ月前。まず生活リズムを変えました。業務で遅くなっても朝4時には起床するということを決めました。朝型に直すのに1週間程度かかりましたが、朝の目覚めがよくなった頃から本格的に朝2時間の勉強を開始しました。

まず、専門科目の過去試験最新問題を解き、自分の不得意分野と得意分野を確認するとともに試験の傾向を把握しました。今回技術士の勉強を始めたきっかけは「幅広い知識を取得する」ということが目的のため、全分野の勉強をまんべんなく進めました。建設部門全分野を一通り終わった後、得意とする科目を3つ程度に絞り過去問の数をこなしました。基礎科目や適正科目は時間が取れず、受験の2ヶ月前程度にざっと過去出題された問題に目を通した程度しかおこなっていませんでしたので、当日まで不安な状態で臨みました。

3 受験の感想

何とか一次試験は1回目のテストでギリギリ合格点を得ることができ、ほっとした記憶があります。8ヶ月の間、大学の専門書などを振り返りながら復習できたことは、学生時と違って現場のイメージを持ちながら勉強できた点で習得が更に深まったと思います。また中大技術士会が行っている現場訪問など現場を実際に自分の目で見るということで、机上の勉強よりもイメージがつかみやすくなり、知識を深めるためには重要であると感じました。

4 最後に

受験後は公益社団法人日本技術士会と中大技術士会に入会しましたが、勤務地の都合上なかなか参加することができず、配信されてくる情報を確認するという日々が続いております。しかし今後は、中大技術士会の研究会や他の活動についても、積極的に携わっていければと思います。また先輩技術士の方々かにご指導頂きながら生涯をかけて社会に貢献できる技術者でありたいと思います。

以上。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org

2013年7月号 中大技術士会 広報部会 発行

中大技術士会ホームページ： <http://www.chuo-u-pej.org/>